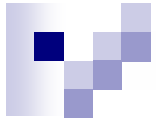


2011年3月期
第2四半期決算説明会

プラマテルズ 株式会社

(証券コード 2714)

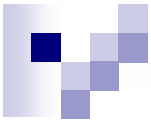
(注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満で切り捨てて記載しております。



目次

I. 2011年3月期第2四半期連結決算概要と
通期の計画

II. 今後の基本戦略



プラマテルズについて

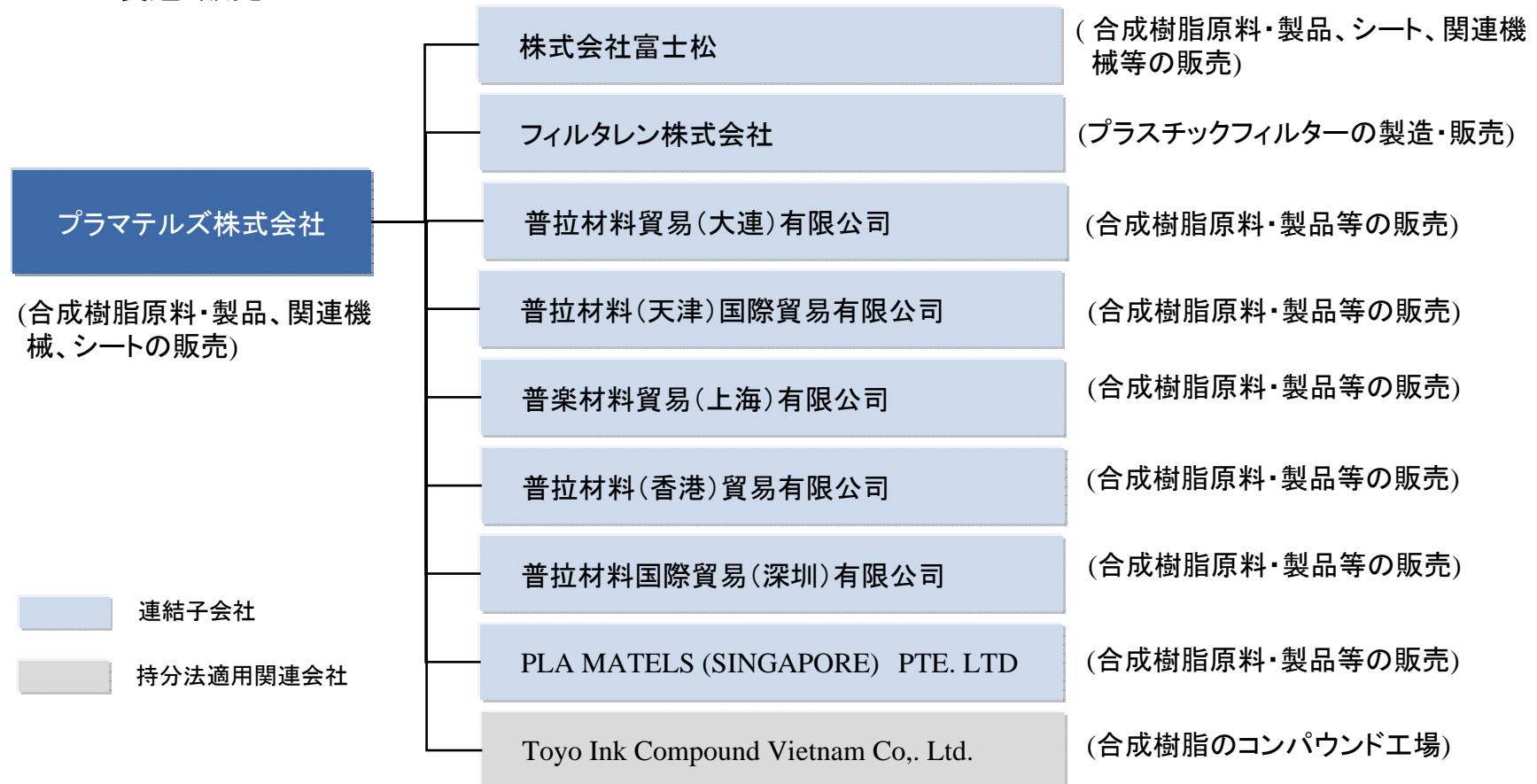
■ 当社グループの構成

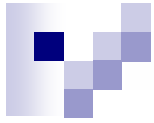
連結子会社8社(国内2社、中国4社、香港1社、シンガポール1社)、持分法適用関連会社1社

(※当社グループは、当社の親会社である双日プラネット株式会社を中心とした企業集団に属しております)

■ 当グループの主たる事業

合成樹脂原料、合成樹脂製品、合成樹脂関連機械、合成樹脂シートの販売、並びに合成樹脂フィルターの製造・販売





I . 2011年3月期第2四半期連結決算概要と通期の計画

1. 2011年3月期第2四半期連結決算
2. 取扱商材別連結売上高増減
3. 当社の取扱合成樹脂原材料の特性
4. 販売先業界別売上高構成比
5. 連結営業利益の変動要因
6. 原材料価格に左右されにくい安定した利益率
7. 為替の影響について
8. 連結貸借対照表
9. 連結キャッシュ・フロー
10. 2011年3月期連結業績予想

1. 2011年3月期第2四半期 連結決算

【単位】金額:百万円、比率:%

	10/3期2Q		11/3期2Q			
	金額	売上高比	金額	売上高比	当初予想比	前年同期比
売上高	20,902	100.0	27,403	100.0	+1.1	+31.1
うち海外売上高	3,477	16.6	6,615	24.1	—	+90.3
売上総利益	1,290	6.2	1,610	5.9	—	+24.8
営業利益	222	1.1	418	1.5	+26.7	+88.1
経常利益	188	0.9	405	1.5	+30.7	+115.5
第2四半期純利益	125	0.6	233	0.9	+29.7	+86.7

売上高

前年同期比+31.1%、当予比+1.1%

- 金融危機の影響を受けた昨年度に比べ、増収
 - 香港、上海、大連等の好調により、大きく増収
- 海外比率は、16.6%から24.1%に増大

売上総利益

前年同期比+24.8%

- 増収に伴い、大きく増益に

営業利益

前年同期比+88.1%、当予比+26.7%

- 収益の回復、継続的なコスト削減の取組みにより販管費比率を低下

第二四半期当期純利益

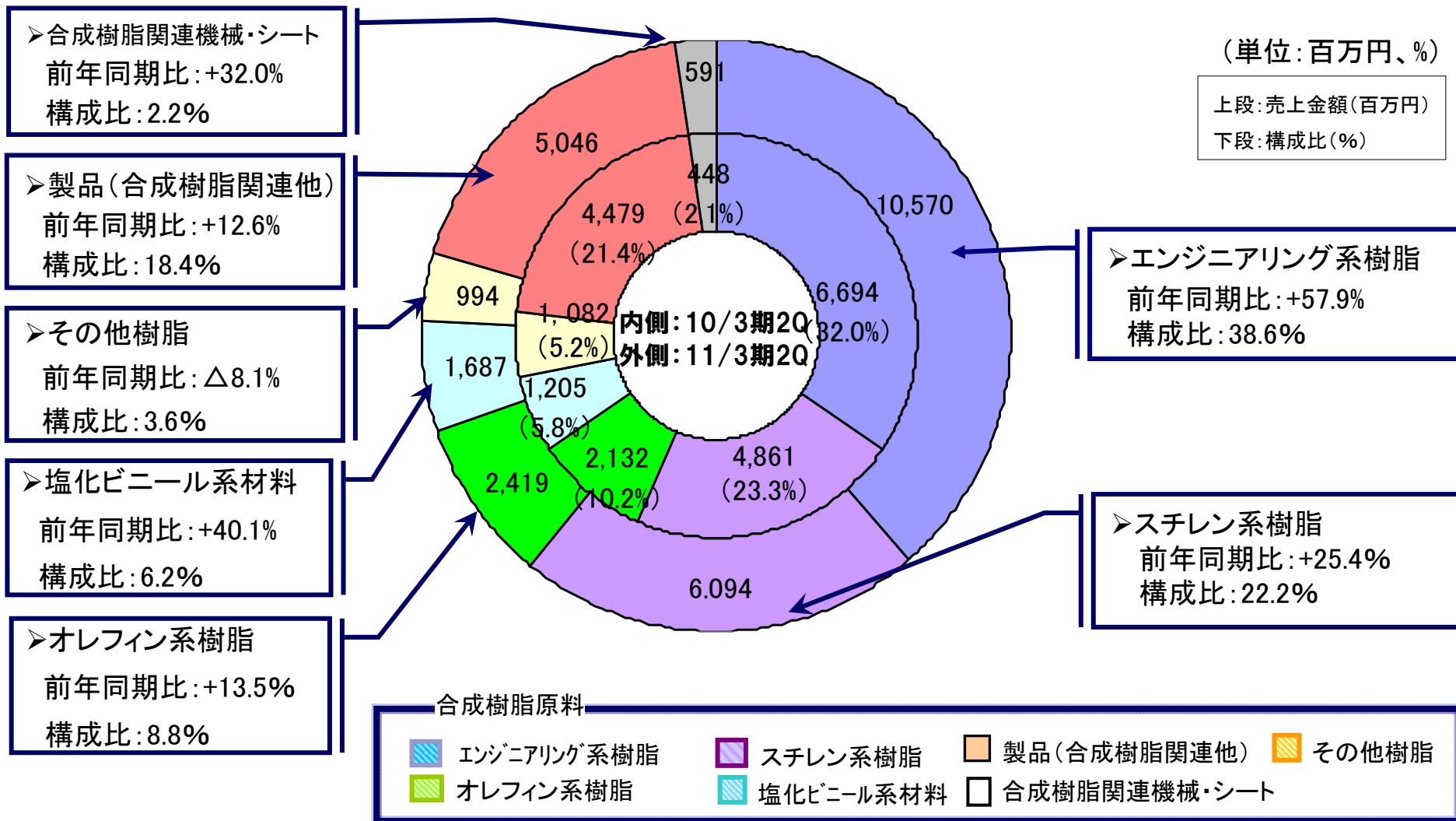
前年同期比+86.7%、当予比+29.7%

- 大きな特別損益の発生なく、増収に伴い、大きく増益

※平成22年10月18日に上期業績予想の上方修正を行っております
実績と修正予想に差異がないため、実績と修正予想の比較は記載しておりません

2. 取扱商材別連結売上高増減

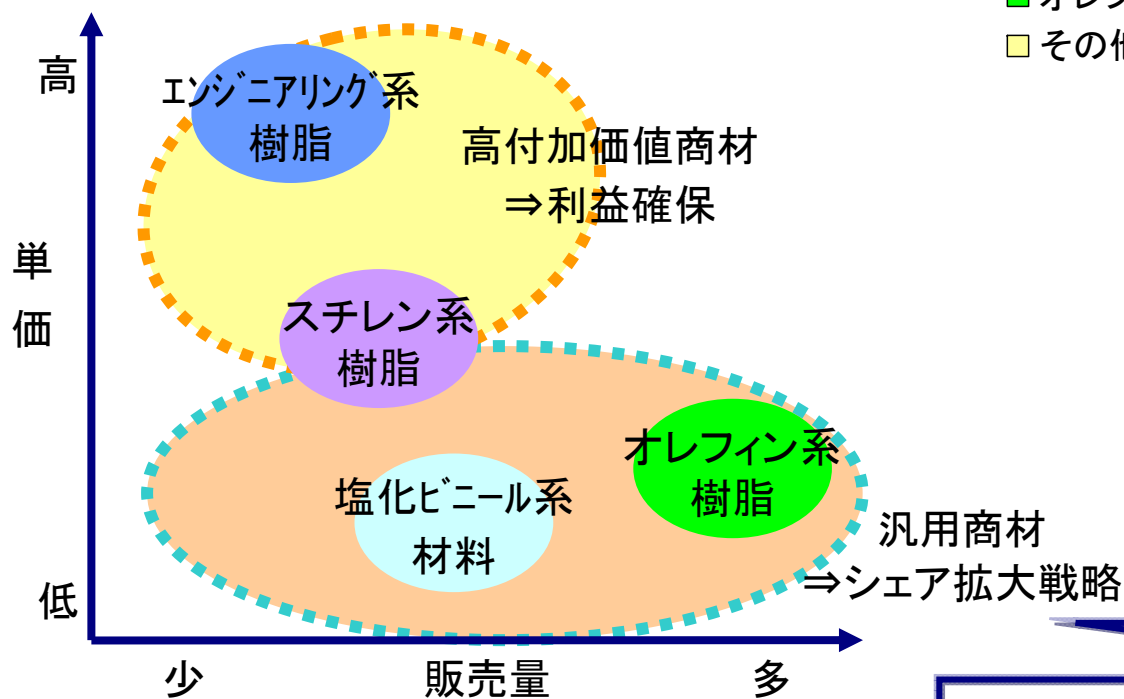
高付加価値商材が大きく売上を伸ばし、高付加価値商材比率を大きく改善



3. 当社の取扱合成樹脂原材料の特性

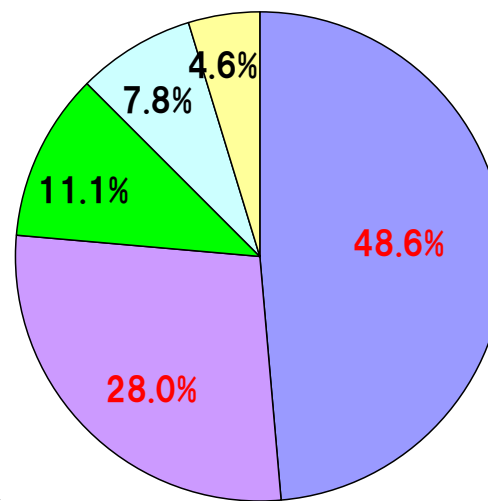
相対的に単価の高い高付加価値商材に注力

【国内市場における樹脂別単価、数量イメージ】



【当社合成樹脂売上高実績(11/3期2Q)】

- エンジニアリング系樹脂
- スチレン系樹脂
- オレフィン系樹脂
- 塩化ビニール系材料
- その他樹脂



高付加価値商材が合成樹脂売上高の75%超を占める

4. 販売先業界別売上高構成比

OA・事務機器、家電・電子が全体の約55%を占める

当社の取扱商材(合成樹脂)	主な製品
エンジニアリング系 ➢ ポリアミド樹脂 ➢ ポリアセタール ➢ ポリカーボネート	➢ OA・事務機器 ➢ 光学機器(カメラ等) ➢ 精密部品(ギア等の機構部品) ➢ 電子部品(コントローラー等)
スチレン系 ➢ ポリスチレン ➢ ABS樹脂	➢ 家庭電器製品 (テレビ、エアコン、冷蔵庫等) ➢ 事務機器 (パソコン及び周辺機器、FAX等) ➢ 玩具等
オレフィン系 ➢ ポリエチレン ➢ ポリプロピレン	➢ 家庭電器製品 ➢ 医療器具(注射器具等) ➢ 自動車部品(ハンドル、内装部品)
塩化ビニール系材料 ➢ 塩化ビニール樹脂	➢ 建材業界 (床材、壁紙)
その他 ➢ 上記に属さないPET、MMA、エラストマー樹脂等	➢ 飲料ボトル ➢ 自動車部品 ➢ 玩具

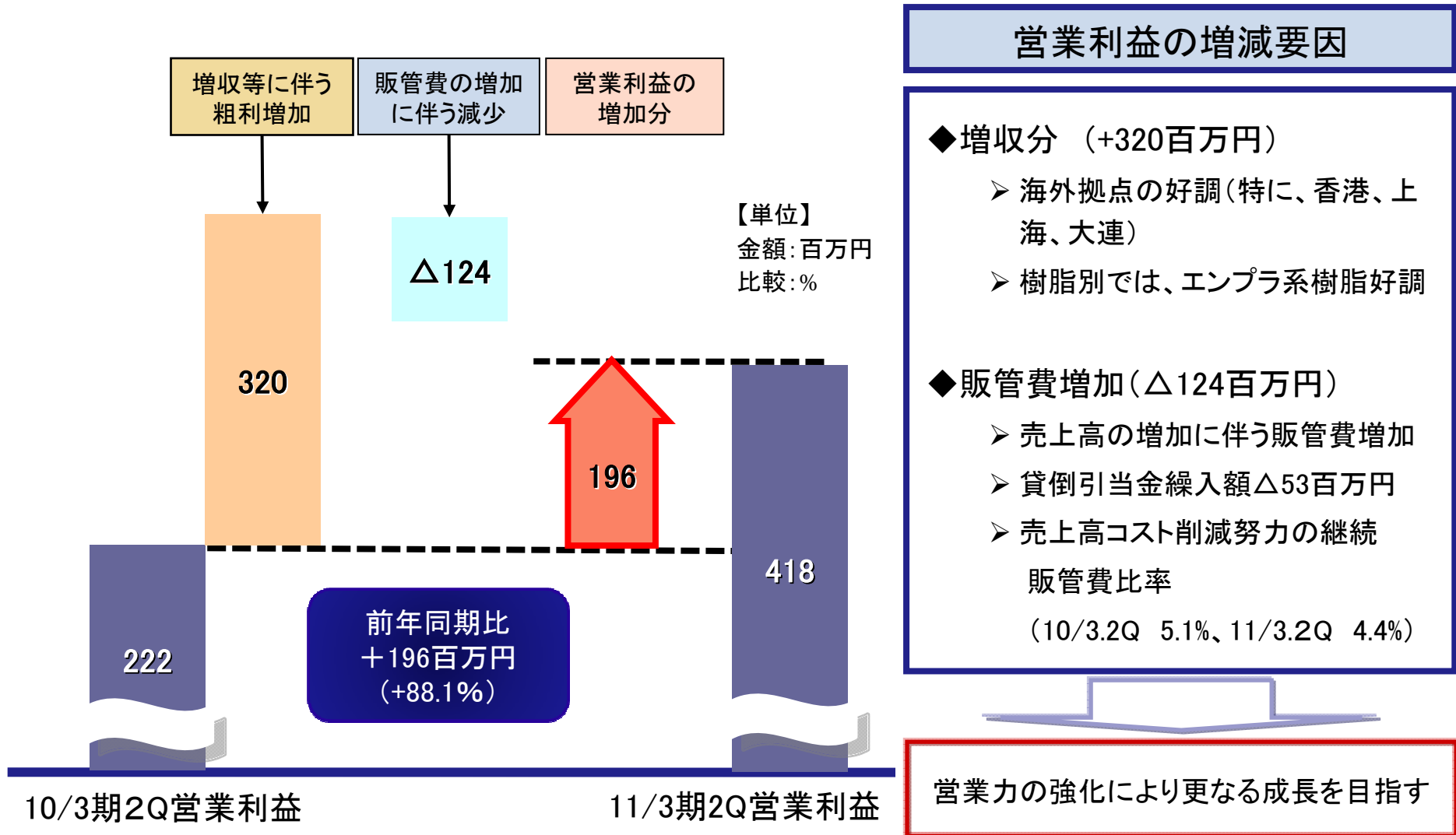
【当社の主な販売先構成比(単体)】

	ウェイト
OA・事務機器	39%程度
家電・電子	16%程度
自動車	6%程度
医療器	6%程度
建材	8%程度
容器・化粧品	2%程度
玩具・その他	23%程度

* 販売先業界別売上高構成比は、単体ベースで売上高上位100社の構成比を記載

5. 連結営業利益の変動要因

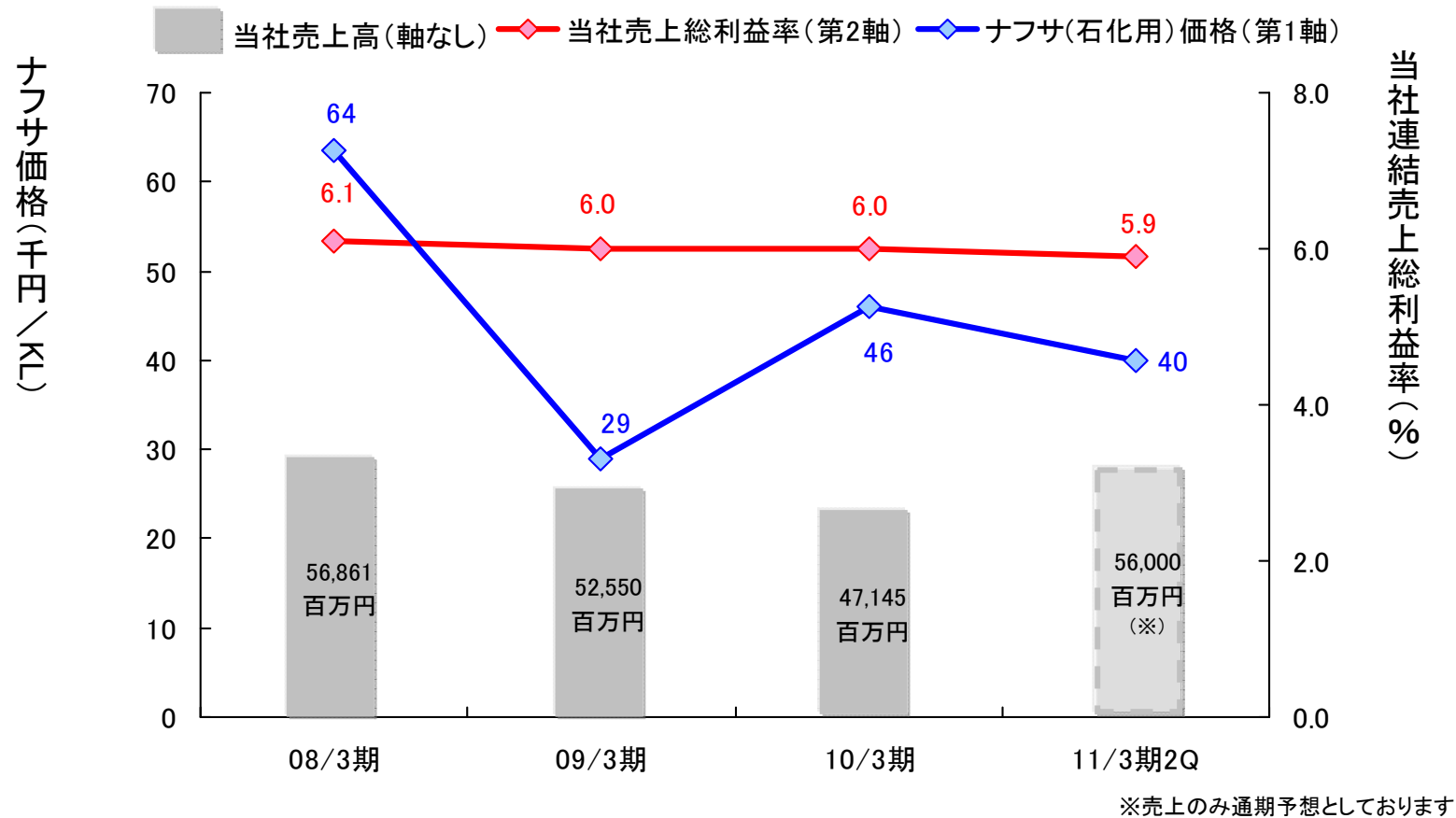
売上高の増加に伴う増益



6. 原材料価格の変動に左右されにくい安定した利益率

原材料のナフサ価格に左右されにくい安定した売上総利益率を維持

【当社売上総利益率とナフサ(石化用)価格の推移】

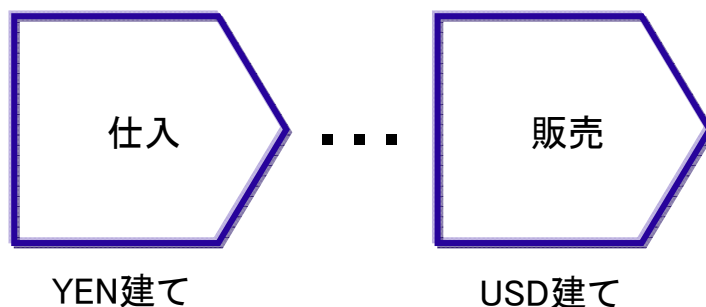


* 売上総利益率の変化は、商材構成比、その他戦略投資の有無等が主な変動要因

7. 為替の影響について

商材取引等で発生する為替変動による当社への影響は限定的

【輸出：為替変動が当社損益に与える影響】



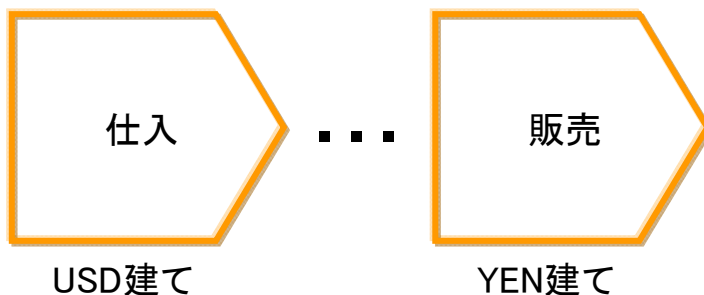
約50万USD/月



相殺

為替の影響は
軽微

【輸入：為替変動が当社損益に与える影響】



約50万USD/月



*ただし、商材取引における取引時と決算時のレート変動に伴う為替差損、連結決算時の為替換算調整勘定については、一定の影響を受ける可能性があります

8. 連結貸借対照表

【単位】金額:百万円、構成比:%

	10/3期4Q末		11/3期2Q末		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額
流動資産	19,787	90.4	20,283	90.8	496
現金及び預金	1,902	8.7	1,909	8.6	7
売上債権	16,539	75.6	16,943	75.9	404
たな卸資産	1,034	4.7	1,116	5.0	82
固定資産	2,090	9.6	2,045	9.2	△45
投資その他の資産	1,393	6.4	1,352	6.1	△41
資産合計	21,877	100.0	22,327	100.0	450
流動負債	14,992	68.5	15,614	69.9	622
買掛債務	11,398	52.1	11,985	53.7	587
短期借入金	3,100	14.2	3,085	13.8	△15
未払法人税等	134	0.6	153	0.7	19
固定負債	1,145	5.2	899	4.0	△246
長期借入金	609	2.8	352	1.6	△257
負債合計	16,137	73.8	16,512	74.0	375
純資産	5,739	19.7	5,815	26.0	76
株主資本	5,661	25.9	5,835	26.1	174
負債・純資産合計	21,877	100.0	22,327	100.0	450

連結B/Sの増減要因

商いの活発化に伴う売上債権の増加

商いの活発化に伴う買掛債務の増加

長短借入金の入れ替えと返済に伴う、長期借入金の減少

利益剰余金の増加(+1.7億)

自己資本比率 11/3期2Q末25.8%
(10/3期末 26.0%)

9. 連結キャッシュ・フロー

営業CFの増加が財務CF等で相殺されるも、十分なキャッシュの水準は維持

現金及び現金同等物の増減要因

(百万円:M(Million)と表記)

◆ 営業CF (+386百万円)

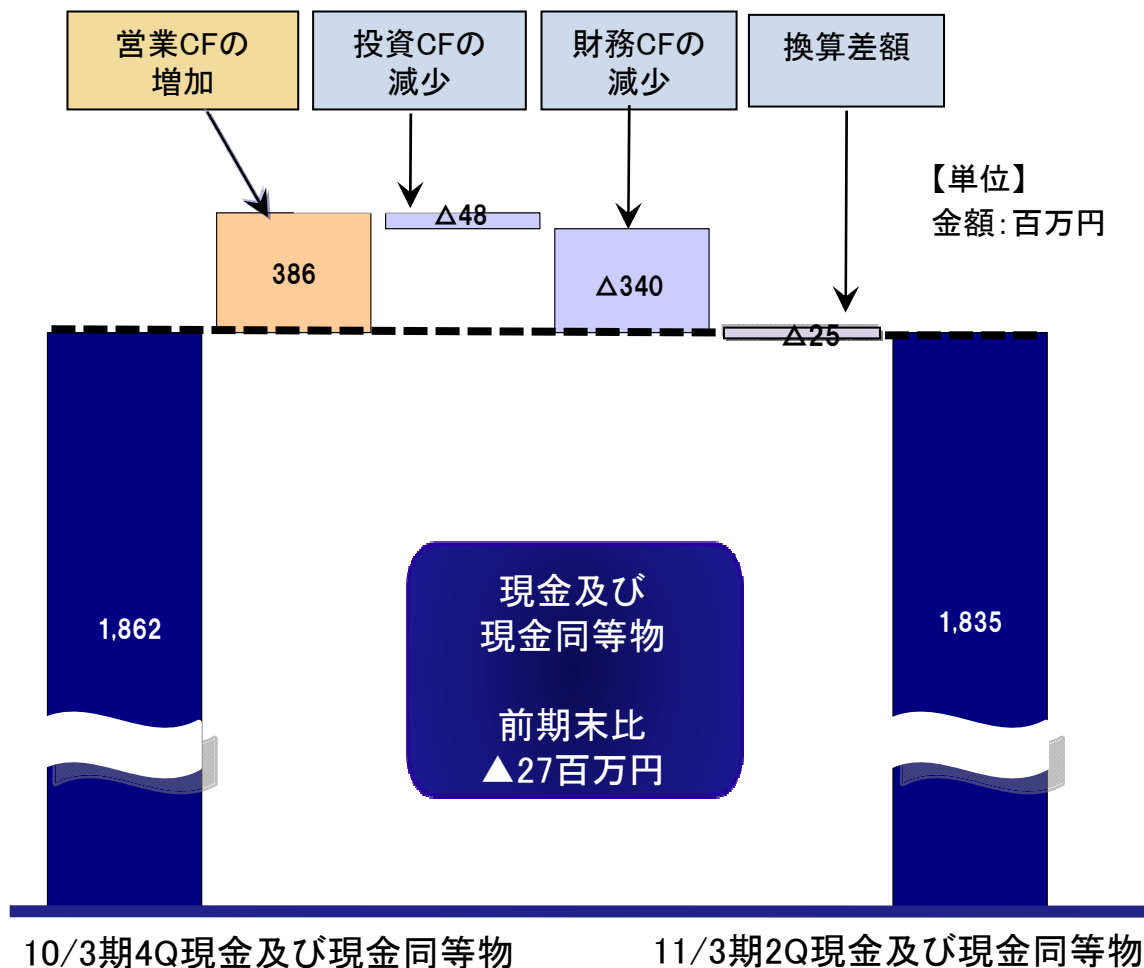
- 売上債権の増加(△505M)
- 仕入債務の増加(+666M)
- 税引前当期純利益(+404M)

◆ 投資CF (△48百万円)

- 定期預金の預入による支出(△34M)

◆ 財務CF (△340百万円)

- 短期借入金の減少(△329M)
- 長期借入による収入(+150M)
- 長期借入金の返済(△69M)
- 配当支払(△59M)



10/3期4Q現金及び現金同等物

11/3期2Q現金及び現金同等物

10. 2011年3月期連結業績予想

1. 売上高

海外を中心に、現地進出日系優良顧客の深耕等の取組みにより、更なる拡大を目指す

2. 営業利益

高付加価値商材の商い拡大に加え、コスト削減努力の継続により、利益の拡大を図る

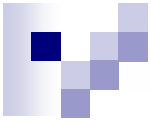
【単位】金額：百万円、構成比：%

	10/3期 (実績)		(上期実績)		11/3期 (下期予想)		(通期予想)	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	売上高比
売上高	47,145	100.0	27,403	100.0	28,597	100.0	56,000	100.0
営業利益	663	1.4	417	1.5	423	1.5	840	1.5
経常利益	621	1.3	405	1.5	395	1.4	800	1.4
当期純利益	388	0.8	233	0.9	247	0.9	480	0.9
一株当たり 当期純利益	45.49	—	27.31	—	28.84	—	56.15	—

(注) 2011/9月末 発行済み株式数： 8,550,000株

配当予定(連結)： 第2四半期配当 6.00円 年間配当 13.00円

※平成22年10月25日に通期業績予想の上方修正を行っております



Ⅱ. 今後の基本戦略

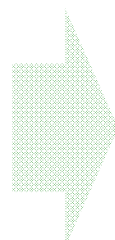
11. 顧客(市場)の動向
12. コア・コンピタンス
13. 戦略ビジョン
14. 海外売上高の更なる拡大
15. 主要海外拠点の今後の見通し
16. 今後の経営計画の考え方
17. 今後の成長に向けて

11. 顧客(市場)の動向

当社の顧客は、「技術」「コスト」「消費地」を念頭に最も合理的な世界最適生産体制の構築に向けて動き始めた

顧客動向

- アジア、中国等の新興市場での拡販
- 新しい事業分野の開拓
- 省エネ・省資源の推進

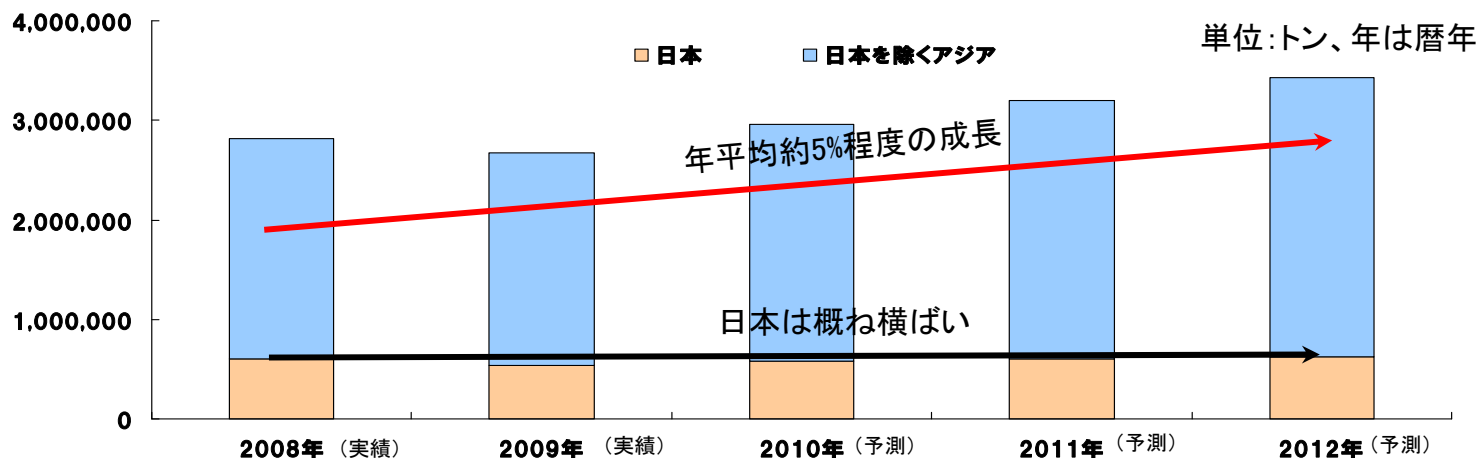


「技術」「コスト」「消費地」を念頭に置いた最も合理的な世界最適生産体制の構築

市場動向

【エンジニアリング樹脂市場の見通し】

エンジニアリング樹脂市場は国内は概ね横ばい、アジアでは5%以上の伸びを予想



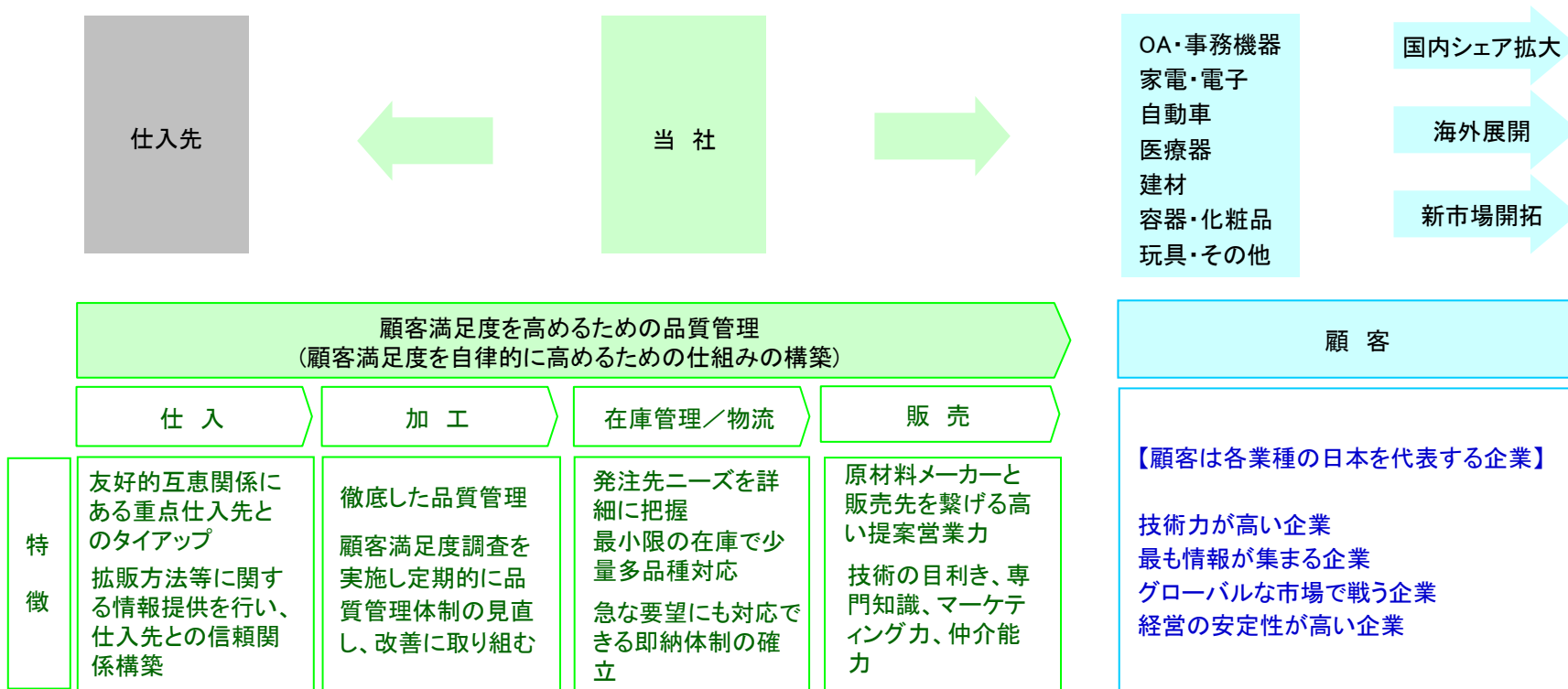
本頁では、当社で取扱いの多いポリアミド樹脂、ポリアセタール、ポリカーボネードを総称してエンジニアリング樹脂としています

出典) 当社推計

12. コア・コンピタンス

最もQCDに厳しい日本の優良企業と継続的に取引するために合成樹脂専門商社として

1. 合成樹脂原料に関するきわめて高い専門性
2. 商社としてのネットワークを駆使した、メーカーを巻き込んだ卓越した提案力
3. 顧客とのコミュニケーションを高め、少量多品種即納体制の構築

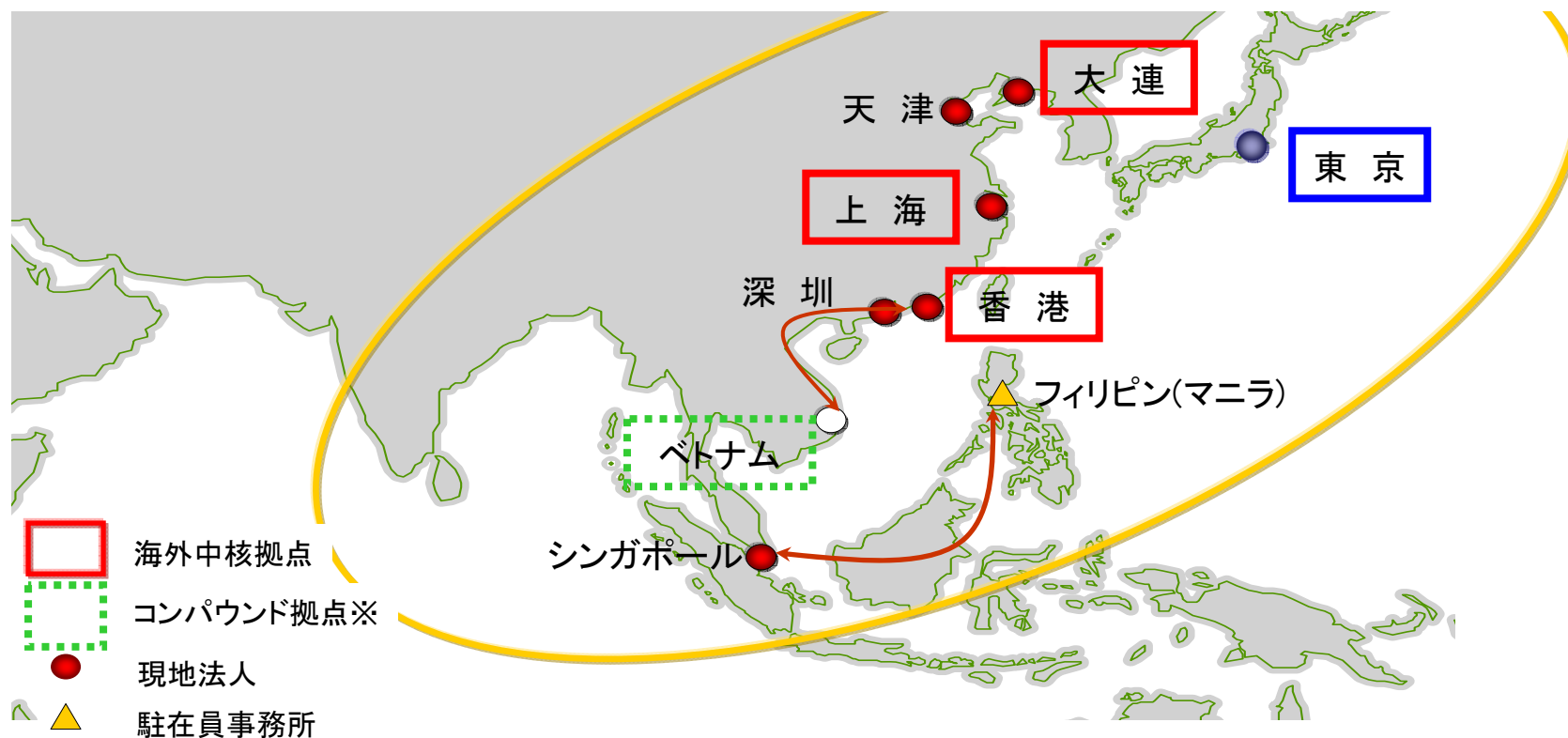


13. 戦略ビジョン

合成樹脂専門商社としてアジアに注力

アジア進出を進める日系企業への供給体制の更なる充実を図る

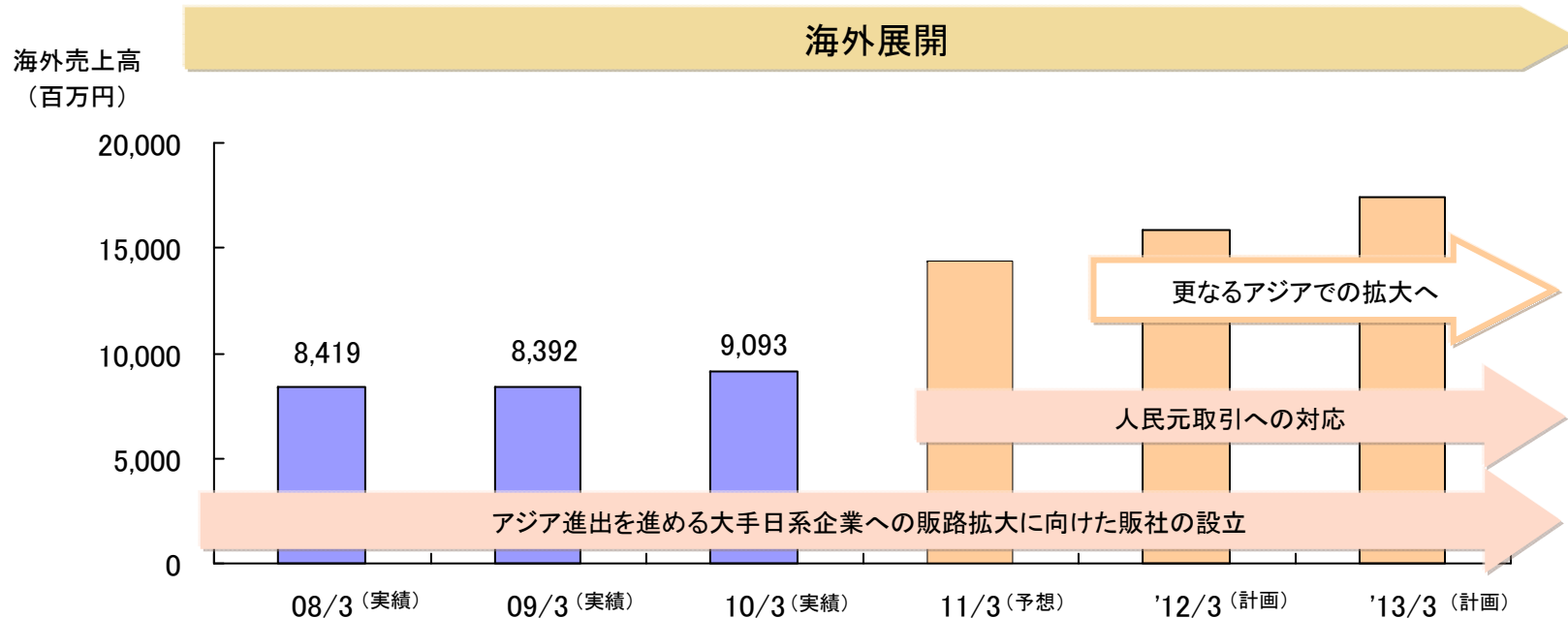
- 2009年8月に大連に設立した海外子会社が本格稼働
- 中国市場での販路拡大に向け、深圳業務サービスセンターを2009年1月に設立、2010年9月、8号令販社へ
⇒ 人民元取引が可能になったことで、中国の内需拡大の機会を捉え、更なる成長を目指す



*コンパウンド拠点：目的とする性能や機能を得るために、プラスチックのベース樹脂に強化材や添加剤を配合した材料を製造する拠点

14. 海外売上高の更なる拡大

アジアを中心とする商いの拡大により、海外売上高の更なる拡大を目指す



【ご参考】 海外展開の歩み

02/4 上海に駐在員事務所設立
03/1 香港に現地法人設立
03/2 フィリピンに駐在員事務所設立
03/3 シンガポールに支店設立

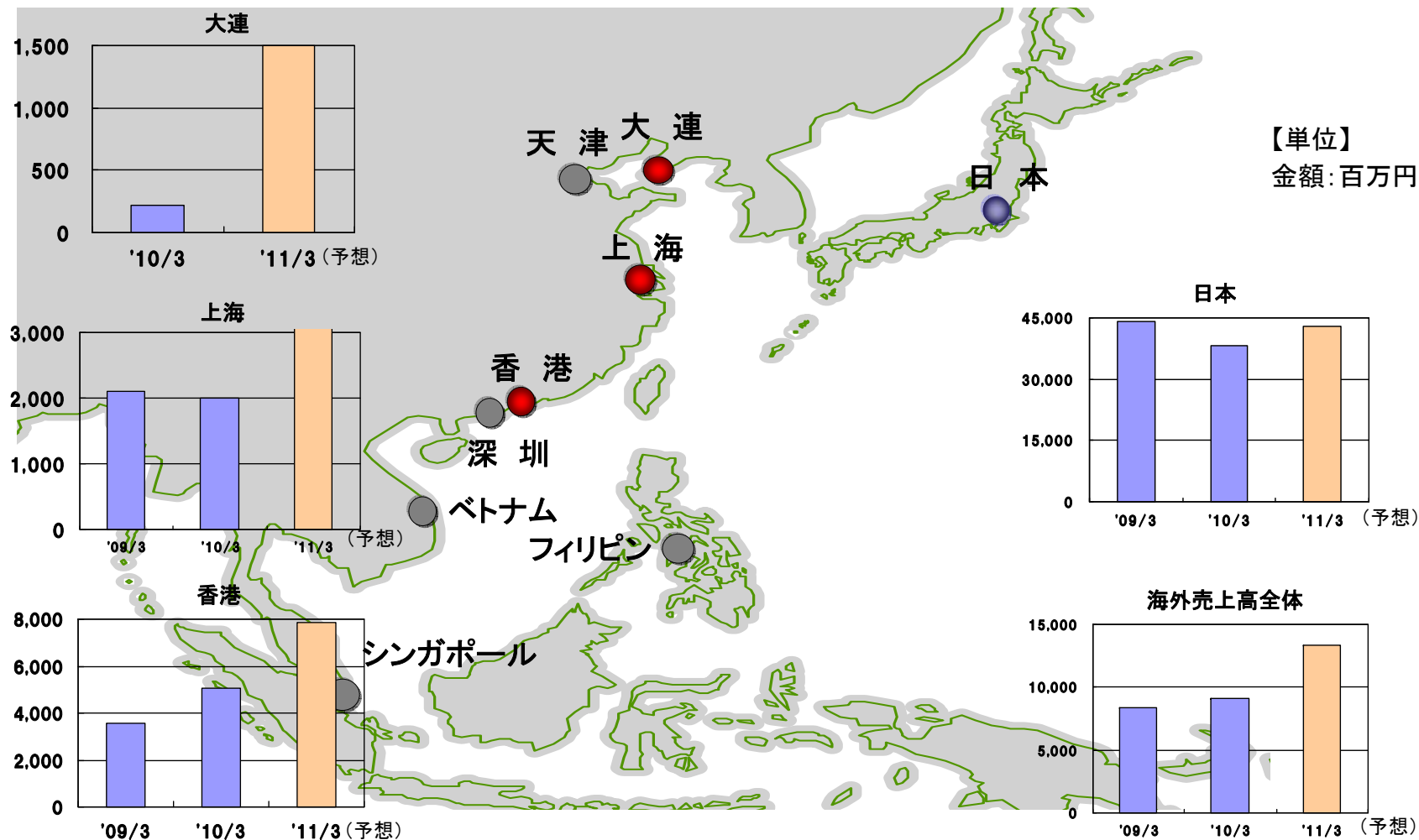
03/4 上海に現地法人設立
04/3 シンガポールに現地法人設立
04/10 天津に現地法人設立
06/2 ベトナムに合併会社設立

06/10 上海、香港の増資
09/1 深圳に現地法人設立
09/8 大連に現地法人設立

※海外売上には、海外拠点の売上高に加え、日本からの海外向け売上高も含まれております

15. 主要海外拠点の今後の見通し

上海、香港、大連を中心に、海外進出日系企業等への更なる深耕



16. 次期経営計画の考え方

景気動向
世界経済

- ・ 国内市場の拡大は期待できないものの、中国、アセアン諸国では5～10%程度のGDP成長率が期待される

為替動向
原油動向

- ・ 円高ドル安傾向が継続することを想定
- ・ 新興国での原油需要は継続することを想定

市場動向

- ・ 当社の主力であるエンプラ市場等では、今後も顧客のグローバル展開の進展による継続的な需要拡大が見込まれる

次期
経営計画
の方向性

12/3期
～
13/3期

・ 基本的な考え方

【 海外展開 】… アジア進出を進める日系大手優良顧客の海外戦略を踏まえ、中国等を中心に、海外ビジネスの更なる拡大を図る

- 顧客の製造拠点としてのアジア進出への対応
⇒ 既存販社における営業員の増員、新販社の設立
- 顧客の中国市場における製品販売の拡大方針への対応
⇒ 人民元での原料販売
- コスト・パフォーマンス改善に向けた取り組みへの対応
⇒ 顧客のグローバル戦略に沿って、更なるアジアでの迅速かつ柔軟な対応推進

【 国内展開 】…国内優良顧客及び国内優良仕入先との新たな取り組みの強化

・ 数値目標の前提

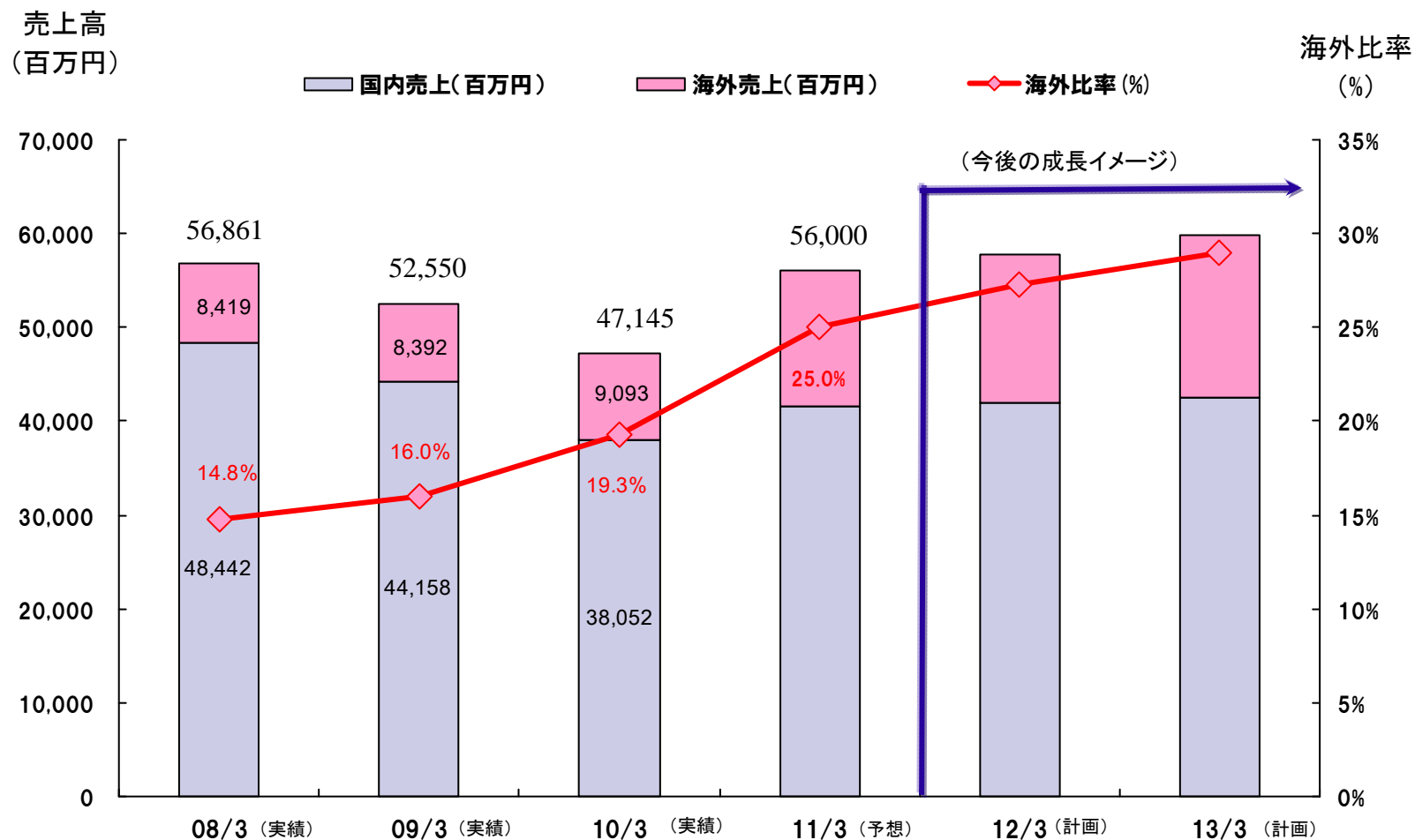
国内は横ばい、アジアを中心とする海外の成長機会を着実に捉える

・ 株主還元の基本な考え方

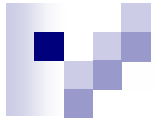
安定配当をベースに、業績、投資のタイミング等を鑑み、株主還元を行う

17. 今後の成長に向けて

国内横ばいも、アジアを中心にビジネス拡大を図り、更なる成長を目指す



※海外売上には、海外拠点の売上高に加え、日本からの海外向け売上高も含まれております



<お問い合わせ先>

プラマテルズ 株式会社

経営企画部 部長 山本 倫寛

電話 : 03 - 5789-9700

FAX : 03 - 5789-1690

本資料には当社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略など将来に関連する記述が含まれております。これらの将来に関する記述については、当社が現在入手している情報に基づく判断や仮定に基づいており、将来における当社業績または展開に対し確約や保証を与えるものではありません。ご利用に際しましては、予想と異なる結果になる可能性がある点にご留意されますようお願い申し上げます。